

平成28年度 前期選抜の選抜・評価方法（予定）

学校番号 市4

船橋市立船橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

人物に優れ、積極的な学習意欲を持ち、入学後も本校で以下のいずれかの特色を発揮できる者

- ア 学習成績が特に優れ、授業に積極的に取り組み、まじめに努力すること。
- イ 英語において高い能力を有し、本校の国際交流活動や留学教育コースに興味・関心があり、その資質をさらに発展させる意欲があること。
- ウ スポーツ活動で優れた実績又は資質を有し、体育・スポーツ活動での特色を引き続き発揮できること。
- エ 文化活動・音楽活動・生徒会活動等で優れた実績を有し、自己の資質をさらに発展させる意欲があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の得点合計により評価する。
(2) 調査書	各項目の評価及び記録を「期待する生徒像」に照らして評価する。
(3) 自己表現	自己表現の評価基準により数値化して評価する。

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科の得点合計により評価する。

(2) 調査書

下記のア～オについて、評価及び記録を数値化し合計する。ただし、イ～オの合計の上限は75点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	調査書中の国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語における評定の全学年の合計値を評価する。 (算式1を使用)
イ 国語、社会、数学、理科及び外国語の5教科における学習の記録	左記の5教科の全学年の合計（75点満点）で順位をつけ、順位に応じて20点満点で評価する。
ウ 特別活動の記録	生徒会長、生徒会本部役員に応じて15点満点で評価する。
エ 部活動の記録	全国大会、関東大会、県大会8位以内、県大会出場者及び同等の大会、各種コンクールの出場者について大会規模に応じて20点満点で評価する。
オ 特記事項	3級以上の英語検定について20点満点で評価する。また、学校外のスポーツ・文化活動等において顕著な成績をおさめた者については、「エ 部活動の記録」と同様に評価する。

(3) 自己表現

評価項目	評価基準
志望動機等	「期待する生徒像」のア・イ・エは口頭による自己表現を行う。一人当たりの時間3分程度。イの場合は英語による自己表現も可能(他は日本語)。*音楽活動も口頭による自己表現を行う。また、ウは実技による自己表現を行う。 <実技種目> ・ソフトボール ・陸上競技（長距離） ・陸上競技（短距離） ・バスケットボール ・サッカー ・バレーボール ・剣道 ・柔道 ・体操競技 ・ラグビーフットボール ・その他（基礎的運動等） *該当する競技がない場合はその他（基礎的運動等）を選択 2名の検査係が「期待する生徒像」に照らし、60点満点で評価する。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

本校普通科の「期待する生徒像」に基づき、「学力検査」，「調査書」，「自己表現」等を総合的に判定して入学者の選抜を行う。

ア 「学力検査の得点」，「調査書の得点」，「自己表現の得点」の総合計により順位を付けたときに，予定人員の上位80％をA組とし，入学許可候補者に内定する。

イ A組に属さない者をB組とし，特に「自己表現の得点」を重視し，「学力検査の得点」，「調査書の得点」との総合計により順位を付け，特に問題のない者から入学許可候補者に内定する。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には，選抜のための資料に加え，提出されたことにより，不利益な取り扱いをすることがないように十分に留意する。

5 その他

過年度生については，個人面接を行う。

平成28年度 前期選抜の選抜・評価方法（予定）

学校番号 市4
船橋市立船橋高等学校 全日制の課程 商業科

1 期待する生徒像

人物に優れ、商業に関する興味・関心と積極的な学習意欲を持ち、卒業後の進路についても意欲的に取り組む意志があり、入学後も本校で以下のいずれかの特色を発揮できる者

- ア 学習成績に優れ、資格取得等にも積極的に取り組み、まじめに努力すること。
- イ 商業的実技の資格もしくは資質を有し、その資格もしくは資質をさらに発展させる意欲があること。
- ウ スポーツ活動で優れた実績又は資質を有し、体育・スポーツ活動での特色を引き続き発揮できること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の得点合計により評価する。
(2) 調査書	各項目の評価及び記録を「期待する生徒像」に照らして評価する。
(3) 自己表現	自己表現の評価基準により数値化して評価する。
(4) 面接	面接の評価基準により数値化して評価する。

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科の得点合計により評価する。

(2) 調査書

下記のア～ウについて、評価及び記録を数値化し合計する。ただしイ・ウの合計の上限は20点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	調査書中の国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語における評定の全学年の合計値を評価する。 (算式1を使用)
イ 部活動の記録	スポーツ活動において、県大会出場者及び同等の大会の出場者について大会規模に応じて10点満点で評価する。
ウ 特記事項	検定試験(珠算、情報処理、英語)3級以上を20点満点で評価する。 また、学校外のスポーツ活動等において顕著な成績をおさめた者については、「イ 部活動の記録」と同様に評価する。

(3) 自己表現

評価項目	評価基準
志望動機等	「期待する生徒像」のア・イは口頭による自己表現を行う。 一人当たりの時間3分程度。 また、ウは実技による自己表現を行う。 <実技種目> ・ソフトボール ・陸上競技(長距離) ・陸上競技(短距離) ・バスケットボール ・サッカー ・バレーボール ・剣道 ・柔道 ・体操競技 ・ラグビーフットボール ・その他(基礎的運動等) *該当する競技がない場合はその他(基礎的運動等)を選択 2名の検査係が「期待する生徒像」に照らし、60点満点で評価する。

(4) 面接

評価項目	評価基準
商業科への学習意欲等	2名の検査係が個人面接を行い、志望動機・学習意欲・自己の長所等が明確に述べられているか、態度等が本校生徒としてふさわしいか等の評価基準に照らし、40点満点で評価する。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

本校商業科の「期待する生徒像」に基づき、「学力検査」、「調査書」、「自己表現」、「面接」等を総合的に判定して入学者の選抜を行う。

ア 「学力検査の得点」、「調査書の得点」、「自己表現の得点」、「面接の得点」の総合計により順位を付けたときに、予定人員の上位80%をA組とし、入学許可候補者に内定する。

イ A組に属さない者をB組とし、特に「自己表現の得点」、「面接の得点」を重視し、「学力検査の得点」、「調査書の得点」との総合計により順位を付け、特に問題のない者から入学許可候補者に内定する。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜のための資料に加え、提出されたことにより、不利益な取り扱いをすることがないように十分に留意する。

5 その他

過年度生については、個人面談を行う。

平成28年度 前期選抜の選抜・評価方法（予定）

学校番号 市4

船橋市立船橋高等学校 全日制の課程 体育科

1 期待する生徒像

人物に優れ、スポーツ活動に関する興味・関心と積極的な学習意欲を持ち、入学後も本校で体育・スポーツ活動での特色を発揮できる者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の得点合計により評価する。
(2) 調査書	各項目の評価及び記録を「期待する生徒像」に照らして評価する。
(3) 適性検査Ⅰ	適性検査Ⅰの評価基準により数値化して評価する。
(4) 適性検査Ⅱ	適性検査Ⅱの評価基準により数値化して評価する。

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科の得点合計により評価する。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
教科の学習の記録	調査書中の国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭及び外国語における評定の全学年の合計値を評価する。（算式1を使用）

(3) 適性検査Ⅰ

評価項目	評価基準
基礎的な運動能力	A 50m走，B 立ち幅跳び，C ハンドボール投げの3種目を測定し，各種目を男女別に30点満点で評価する。

(4) 適性検査Ⅱ

評価項目	評価基準
専門的な運動能力	以下のA～Iより1種目を選び，基礎能力130点満点，応用能力130点満点で評価する。ただし該当種目がない場合はJを選んでもよい。 A ソフトボール B 陸上競技（長） C 陸上競技（短） D バスケットボール E サッカー F バレーボール G 剣道 H 柔道 I 体操競技 J その他（基礎的運動能力）

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

本校体育科の「期待する生徒像」に基づき、「学力検査」，「調査書」，「適性検査」等を総合的に判定して入学者の選抜を行う。
「学力検査の得点」，「調査書の得点」，「適性検査Ⅰの得点」，「適性検査Ⅱの得点」の総合計により順位を付け，特に問題のない者から入学許可候補者に内定する。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には，選抜のための資料に加え，提出されたことにより，不利益な取り扱いをすることがないように十分に留意する。

5 その他

過年度生については，個人面接を行う。